

新発田税務署長賞

社会を支える税

新潟県立 新発田商業高等学校 三年 渡 辺 巴 都 さん

税金とは、私たちの生活において絶対になくてはならないものだ。自分の生活を振り返ってみると、人々が毎日行き交う道路や橋、公園や病院などの公共施設、学校で当たり前のように使っている教室の机や椅子など、暮らしの中でほとんど全てのものが税金によって使用できているということに気が付いた。社会全体が互いに助け合い、公平により良い社会を保っていくためには税というものが大きな支えになっているのだということを知った。

もし、その税金の制度がなかったら私たちの生活が今と同じように成り立つことは可能なのだろうか。いや、それは不可能だと思う。だが国民の多くは税金を納めることに対して、自分が損をしていると感じる人が多いと思う。その理由は、税金の使い道にあるのでは無いかと考えた。私は以前、病院へ受診をした時、診察を待つ人のあまりの多さに驚いた。もちろん本当に具合が悪くて来院している人がほとんどなのだと思うけど、来る必要のないように見える人が時間潰しに来ているような光景が目にとまった。ただ疑問を抱いた。その後インターネットで調べてみたところ、医療費の個人負担が少ないことによって軽い症状でもすぐに受診をする人たちや、暇潰しに来る人が多くなって、医療機関が人手不足で上手く回らなくなっているという現状を知った。いくら税を納めていたとしても、一円も無駄な使い方をすることは許されないと思う。そういう不誠実な使い方に不満を抱く人が少なくてもいることが、税金に対しての負のイメージを作っているのではないかと感じた。確かに税金が無かったら日本の平和は保たれていないと思う。しかし、何でも税で対処するのではなく、本当に社会が救わなければいけない人にだけ負担を減らしたりする必要があると感じた。また、税金を大切に使い、納得できる使い方をして国民一人ひとりが納税することに対して、誇らしく感じられるような雰囲気になっていけたらいいと思った。

私たち若者にとって、税金というものはまだ他人事、知識は浅いけど、今後の日本に考えられる課題は沢山あるはずだから、興味を持って調べていこうと思った。また、税に支えられている今の生活に感謝をして生きていきたいと思う。